

【2026 ワールドカップ・ソフィア大会（2日目）】

大会2日目を迎え、本日は個人、団体予選後半種目が行われた。

日本チームとしては、初日に明確となった課題に対し、それぞれが短時間の中で修正を図り、より安定した実施と得点の積み上げを目指した。特に、各要素の成立精度および構成全体の完成度を高めることを意識し、2日目の試技に臨んだ。

【個人：喜田未来乃】

●個人総合 28位

《3種目目：ボール》

得点：24.950（DB 6.60／DA 3.30／A 7.65／E 7.40）

初披露の演技ということもあり、全体としてミスを抑えながら丁寧にまとめる試技となった。大きな崩れなく演技を進めることができた点は評価できる一方で、今後はわずかなブレの中でも確実に成立させ、得点を取り切る力を高めていくことが求められる。

練習時にはクリアに実施できていた身体難度について、本番ではやや精度に欠ける場面が見られた。また、投げ技を含め慎重に実施する意識が強くなったことで、全体的にスピード感が抑えられ、身体難度および手具操作の明確さがやや伝わりにくい部分もあった。今後は丁寧さを維持しながらも、スピード感を伴った実施により、より明確で評価される演技へとつなげていくことが重要である。

難度面では、多くのRにおいて追加価値を十分に組み込むことができず、さらに終盤のDAの一要素が実施できなかったことにより、得点を伸ばしきることができなかった。また、フェットターンにおいて手具操作を2回転までに収めることができず、難度として成立しなかった点も課題として挙げられる。

全体としては、安全にまとめる力は確認できた一方で、今後は攻めながらも成立させる精度とスピードの両立が求められる内容であった。

《4種目目：フープ》

得点：26.900（DB 8.20／DA 3.20／A 7.60／E 7.90）

慣れている作品ということもあり、演技全体を通して迷いなく実施することができ、投げ技にも力強が見られた。約1分半を通して流れを切らずに踊り切ることができた点は大きな収穫である。

一方で、DAにおける転がしの精度や、3つ目のRにおける受けでの側転が成立しなかった場面があり、得点面では取りこぼしが見られた。いずれも細部の精度を高めることで十分に改善可能な内容であり、今後の安定性向上に向けた明確な課題として捉えられる。

全体としては、演技の流れや力強さは十分に発揮できており、細部の精度をさらに高めていくことで、より高い得点へとつながる内容であった。

【団体】

●団体総合 6位

《2種目目：フープ3.クラブ2》

得点：24.300 (DB 5.40/DA 6.90/A 6.85/E 5.45/ P 0.3)

前日の反省を踏まえ、緊張により個々の動きとなってしまう点や、落ち着きすぎて小さくまとまってしまふ部分の改善に取り組んだ。その結果、朝からチームとしてのまとまりが見られ、試合に向けて非常に良い準備を行うことができた。また、本番に向けてもエネルギーを維持し、攻めの姿勢を持って練習に臨むことができていた。

フープクラブ本番では、序盤から中盤にかけて勢いを保ちながら大きなミスなく演技を進めることができた。投げの乱れが生じた場面においても、受け手が素早く判断し、落下や大きな移動を伴わずに対応できた点は、チームとしての対応力の向上が見られる内容であった。一方で、終盤の複数投げにおいてクラブの軌道が逸れたことにより場外落下が発生し、その後の対応において判断の遅れが見られた。予備手具の選択に時間を要したことで演技に空白が生じ、芸術面での減点につながったほか、手具の感覚の違いがその後の交換にも影響し、さらなる落下につながった。加えて、その後のCRが実施できず、複数の技が未実施となったことが得点に影響した。

結果は24.300点で種目別7位、総合6位となった。前半は良い流れで演技を進めることができていただけに、終盤のミスによる失点は大きかったが、一方で、D得点の持ち点やミスの内容を踏まえると、改善による得点向上の可能性は大きい。

本大会を通じて、試合中の判断力や対応力といった実戦力の重要性が改めて明確となった。明日の種目別決勝ではフープ3・クラブ2に出場するが、これまでの積み上げを発揮し、より高い完成度と実施精度を目指して臨んでいきたい。

〈出場選手〉

田口久乃

西本愛実

花村夏実

田中友菜

三好初音

【リザルト】

SEIKO SPORTSLINK

<https://seikosportslink.com/gygr/206/?i=20010081&l=en>